

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を
依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター【ご利用時間 9:00～18:00】※全日対応(土・日・祝日対応)

●フリーダイヤル

☎ 0120-20-8822 ※携帯電話、IP 電話からもご利用いただけます。

全国営業拠点

■支店の移転等により連絡がとれない場合は、下記のアドレスから
最新の電話番号をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



●北海道支店	TEL (011) 786 - 5122	●北陸支店	TEL (076) 263 - 4311
●東北支店	TEL (022) 288 - 8676	●関西支店	TEL (06) 7167 - 3644
●東京支店	TEL (03) 5753 - 7703	●中国支店	TEL (082) 504 - 8282
●関東支店	TEL (03) 6374 - 5687	●四国支店	TEL (087) 863 - 6761
●中部支店	TEL (052) 533 - 0231	●九州支店	TEL (092) 621 - 5772

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99183202 307 T

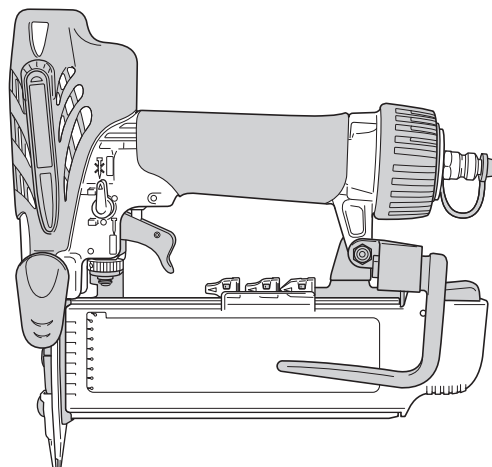
HIKOKI

取扱説明書

高圧仕上釘打機

NT 55HM2 [エアダスタ付]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



用途

- 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め
- 家具製造
- 薄いフロア材 (厚さ 6 mm 程度) の釘止め作業

はじめに

高圧釘打機の安全上のご注意	1
各部の名称	8
仕様	8
別売部品	9

使い方

ご使用前の準備・点検	10
釘の装てん	15
釘の抜き取り方	16
空打ち防止機構について	16
釘を打つ	17
打ち込み深さの調整方法	18
エアダスタバルブの使い方	19
排気方向の変え方	19
フックの取扱い方	20
釘の取扱い方	20

その他

保守・点検	21
エアコンプレッサと作業の速さ	24
使用潤滑油	24
ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

高圧釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
 - 作業中は、保護メガネを使用してください。
 - 周りの人にも保護メガネをかけさせてください。釘を連結している接着剤や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。
- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

釘打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
 - この機体は、使用圧力を一般圧の釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。



⚠警告

- この機体およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧の物と接続できないようにしてありますので、改造をしないでください。

これら以外の物を使用すると事故の原因になります。

- ④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- ⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
- ⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

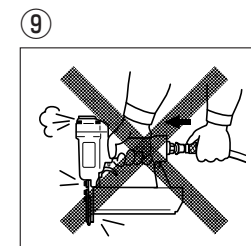
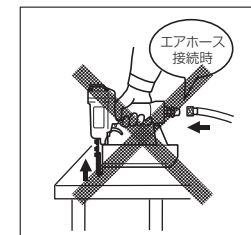
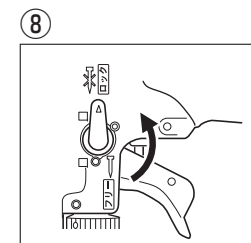
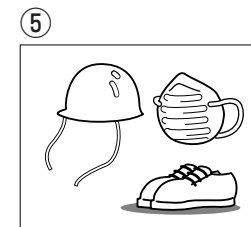
- ねじがゆるんでいないこと。
 - 損傷したり、はずれている部品がないこと。
 - さび付きなどで、正常に作動しない部品がないこと。
 - 引金がロックできること。
 - プッシュレバーを引き出して上下させたとき、スムーズに動くこと。
 - 引き出したプッシュレバーが元の位置に戻ること。
- 異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

- ⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
 - 射出口に触れたり、対象物に当たった状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。
- 誤って釘を発射した場合、けがの原因になります。

- ⑨ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - 空気漏れや異常音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときはお買い求めの販売店に修理を依頼してください。



⚠警告

⑩ 使用前に安全装置の点検をしてください。

この機体は、射出口を打ち込み対象物に当て、さらに引金を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。

釘を装てんする前に、エアホースを接続して、引金のロックを解除し、さらにマガジンを開いて次の点検をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - 射出口を打ち込み対象物に当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑪ 用途に合った作業に使用してください。

- この機体は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑫ 指定の釘を使用してください

指定された釘以外の物を使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑬ 子供を近づけないでください。

- 作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。
- 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。

⑭ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- 散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
- 暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑮ 作業する箇所に、内部配線やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

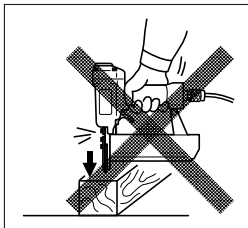
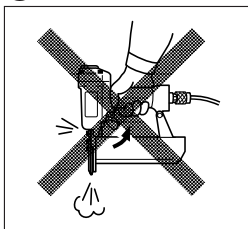
① 指定の空気圧力で使用してください。

この機体の使用空気圧力範囲は
0.98 ~ 2.26 MPa { 10 ~ 23 kgf/cm² } です。

この範囲内で使用してください。

2.26 MPa { 23 kgf/cm² } を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

⑩



①

0.98~2.26MPa
{10~23kgf/cm²}



⚠警告

② 人体に射出口を向けしないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤って釘を発射したり、跳ね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

④ 釘を打ち込む材料の裏側に、手や体を置かないでください。

釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

可燃性の液体やガス(シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など)のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。

釘を打ち込むときの火花による引火や、空気と一緒に吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑥ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指を掛けしないでください。

- 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。

- 釘を装てんするときや調整などをするときは、引金に指を掛けしないでください。

誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
 - 人体に吹き出し口を向けない。
 - 射出口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
- 誤って釘を発射した場合、けがの原因になります。

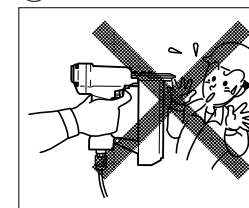
⑧ ノーズキャップの着脱をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

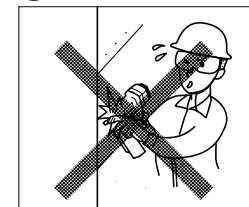
⑨ フックを使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

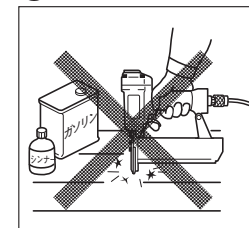
②



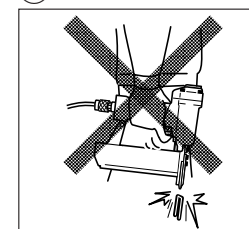
③



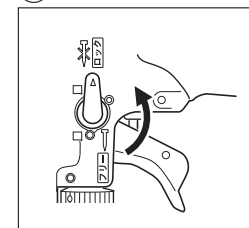
⑤



⑥



⑧



⚠警告

⑩ 次の場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・調整、釘詰まりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑪ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指を掛けた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑫ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘が跳ね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑬ 作業中は周りの人に注意してください。

- 釘を連結している接着剤の破片や、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑭ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑮ 機体の反発に注意してください。

かたい所に打った場合、機体が跳ね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

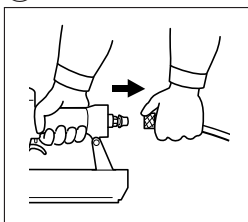
⑯ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

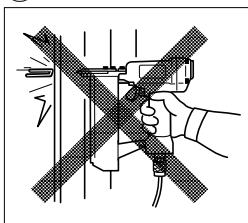
⑰ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
転倒や落下など、けがの原因になります。

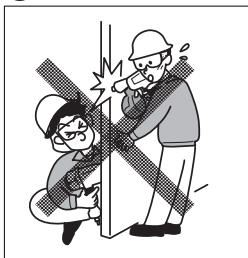
⑩



⑭



⑰



⚠警告

⑱ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

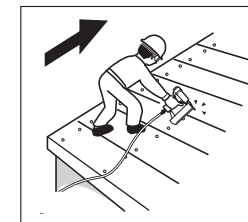
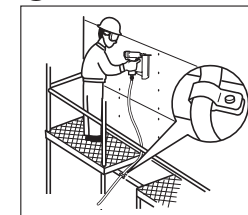
㉑ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

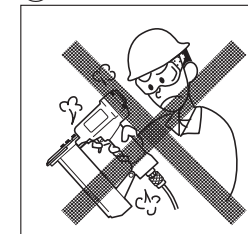
㉒ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑱



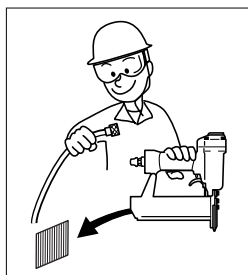
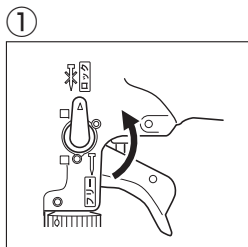
㉒



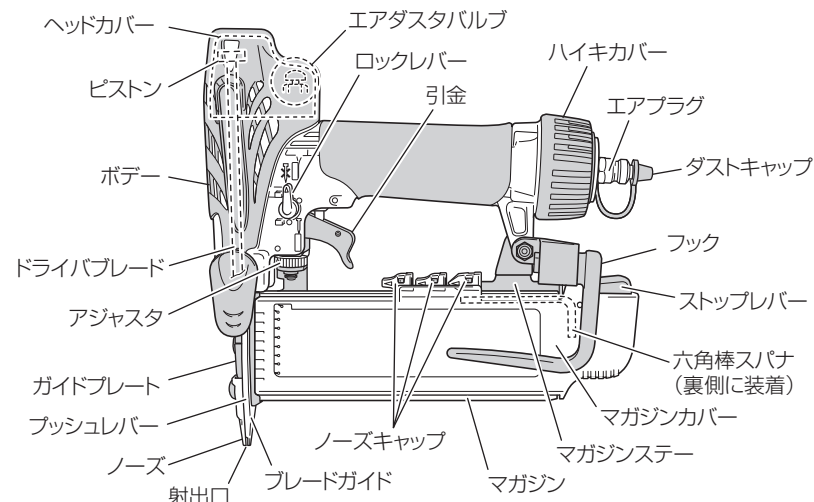
⚠ 警告

作業後

- ① 作業後は、引金をロックし、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。
釘を残しておく、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。
- ② 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。
- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。
 - 安全に能率良く作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
 - 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください
- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
乾燥した場所で、子供の手が届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。
安全性が損なわれ、けがの原因になります。
- ⑥ 釘打機の修理は、専門家に依頼してください。
修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。
修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

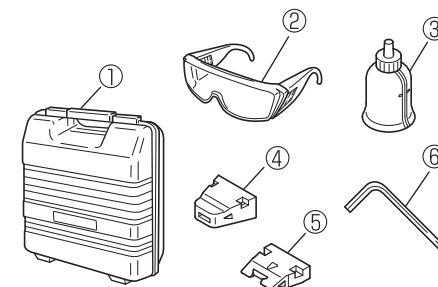


各部の名称



標準付属品

- | | | |
|-----------------------|-------|-----|
| ① 収納ケース | | 1 個 |
| ② 保護メガネ | | 1 個 |
| ③ 油さし (高圧釘打機用) | | 1 個 |
| ④ ノーズキャップ (A)(平打ち用) | | 2 個 |
| ⑤ ノーズキャップ (B)(フロア打ち用) | | 1 個 |
| ⑥ 六角棒スパナ 4 mm | | 1 個 |
- ※ ④ ⑤ ⑥は【本体収納部に装着】



仕様

形 名	NT 55HM2
動 力 形 式	ピストン往復動式
使用 空 気 圧 力	0.98 ~ 2.26 MPa { 10 ~ 23 kgf/cm ² }
釘 の 送 り 方 式	圧縮コイルばね式
釘 の 装 て ん 数	100 本 (1 連)
機 体 の 大 き さ	長さ 241 mm × 高さ 226 mm × 幅 57 mm
質 量	1.2 kg
使用エアコンプレッサ	高圧エアコンプレッサ EC 1443H、EC 1443H (L)、EC 1445H
使用エアホース (内径/長さ)	高圧エアホース (内径: 5 mm 以上 / 長さ: 30 m 以内)

別売部品（別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。）

この釘打機は、下の表に示す仕上釘と超仕上釘が使用できます。

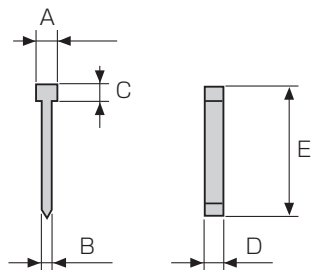
釘は 100 本が 1 連に接着されています。

釘はこの釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。

釘の頭の色は下地材に合わせてお選びください。

注 釘は弊社純正仕上釘または超仕上釘をご使用ください。

純正釘以外の仕上釘または超仕上釘を使用すると、釘詰まりやピストン破損など故障の原因になります。



（寸法単位：mm）

釘		A	B	C	D	E	材質、頭の色
仕上釘	T 1015	1.9	1.0	1.1	1.25	15	鉄：白、茶、薄茶、ベージュ (W) (B) (LB) (Y) ステンレス：シルバー (S)
	T 1020					20	
	T 1025					25	
	T 1030					30	
	T 1035					35	
	T 1040					40	
	T 1045					45	
	T 1050					50	
	T 1055					55※	

※印：ステンレスは除く

（寸法単位：mm）

釘		A	B	C	D	E	材質、頭の色
超仕上釘	T 1015U	1.4	1.0	1.1	1.25	15	鉄：白、茶、薄茶、ベージュ (W) (B) (LB) (Y)
	T 1020U					20	
	T 1025U					25	
	T 1030U					30	
	T 1035U					35	
	T 1040U					40	
	T 1045U					45	
	T 1050U					50	

ご使用前の準備・点検

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●エアコンプレッサ、エアホースの準備

⚠警告

- この機体は、使用圧力を一般圧の釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
- この機体およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧の物と接続できないようにしてあるので、改造しないでください。

この機体に使用できるエアホースの内径は 5 mm 以上です。

エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 エアホースの長さは、30 m 以内の物をお使いください。

エアホースが長いと圧力が低下して、十分な打ち込み力が得られません。

●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。

乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

●釘の準備と安全点検

⚠警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 子供など作業者以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に作動しない部品がないことを点検してください。

用途にあった釘を準備してください。(P.9「別売部品」参照)
P.21「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行ってください。

●空気圧力の確認

空気圧力は、釘打ち込み能力(釘の長さ、部材のかたさなど)に合わせて、 $0.98 \sim 2.26 \text{ MPa} \{10 \sim 23 \text{ kgf/cm}^2\}$ の範囲で調整してお使いください。
空気圧力が $0.98 \text{ MPa} \{10 \text{ kgf/cm}^2\}$ 未満または $2.26 \text{ MPa} \{23 \text{ kgf/cm}^2\}$ を超えま
すと機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してく
ださい。

●引金のロック機構について

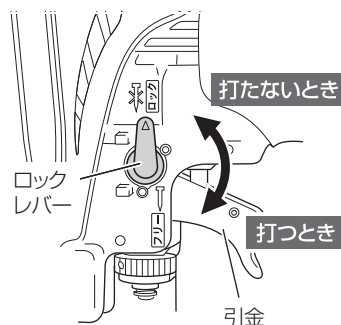
⚠警告

釘を打ち込むとき以外は、引金をロック
してください。

この機体には、引金を引けなくするロック
機構が付いています。

ロックレバーを「ロック」の位置にすると
引金がロックされます。

打つときはロックレバーを回して「フリー」
の位置に、打たないときは「ロック」の
位置にしてください。



●給油について

- 必ず1日に2回以上給油してください。給油は、作業の前後に10～15滴の油をエア
ホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止め
となります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油はP.24「使用潤滑油」を参照
してください。なお、混用は避けてください。

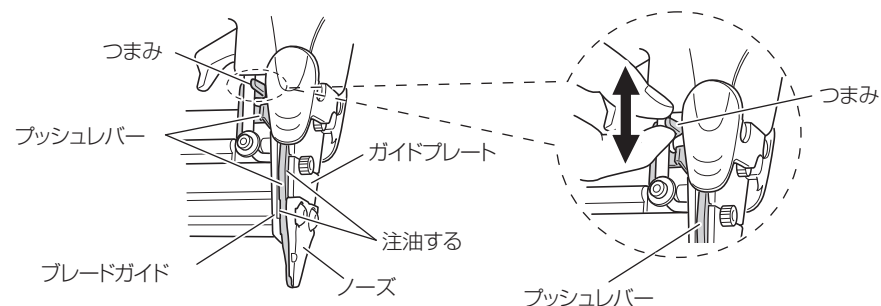
- 注**
- 付属の高圧釘打機用の油さしは、ノズルに穴があいています。先端を切らずにご使用
ください。
 - 高圧釘打機用の油さしは、中栓がしてありますので、中栓を取りはずしてからご使用
ください。
また、ご使用にならないときは中栓をして保管してください。
 - 給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので、
油がかかっても支障のない所で2～3本釘を打ってから作業してください。
 - 作業後給油した場合、釘を1本打ちますと油が内部に行きわたります。

●プッシュレバーの作動確認

⚠警告

プッシュレバーの作動を確認するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてく
ださい。

プッシュレバーのつまみを上下させ、プッシュレバーとノーズがスムーズに摺動するこ
とを確認してください。作動が悪いときは、プッシュレバーの摺動部を清掃し、付属の油を
注油してください。



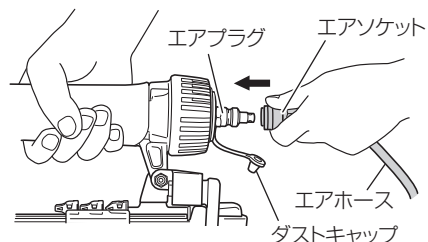
●エアホースの接続

⚠警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- 射出口の先を台や床などに載せて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

- ① エアプラグからダストキャップをはずします。
- ② ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- ③ エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。



●ノーズキャップの使い方

この機体には用途に合わせて、2種類のノーズキャップが付属されています。

名 称	形 状	用 途	使用方法
ノーズキャップ (A)		平打ち	
ノーズキャップ (B)		フロア (床張り)	

化粧合板などの柔らかい材料に仕上釘、または超仕上釘を打つときは、ノーズにノーズキャップ (A) を取付けて、材料の表面をノーズで傷付けるのを防止します。
フロア (床張り) 打ち作業をするときは、ノーズにノーズキャップ (B) を取付けて、フロア材の浮上がりを防止するため、上表の右下図のように機体の打ち込み角度は約45°にし、ノーズキャップ (B) (フロア打ち用) の先端凸部をフロア材のさね (凹部) に確実に当てて打ち込むようにしてください。

注 フロア打ち作業は、フロア材の浮上がりを防止するため、フロア材を接着剤で貼り付けた上で行ってください。

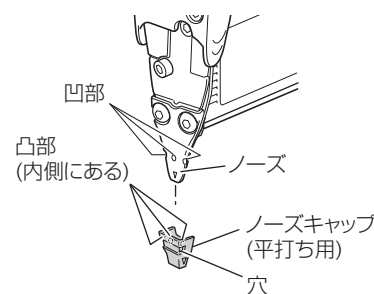
⚠警告

ノーズキャップの取付け・取りはずしの際は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

ノーズキャップの取付け・取りはずし

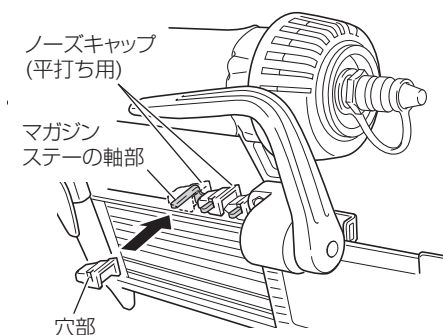
ノーズキャップはノーズに押し込むだけで取付けできます。ノーズキャップの穴部を機体の前方にして、凸部 (3か所) がノーズの凹部 (3か所) に合うように取付けてください。

取りはずすときは、ノーズキャップを指で引っ張り、取りはずします。取りはずしにくいときは、ノーズのすき間にマイナスドライバーなどの細い棒を入れ、取りはずします。



ノーズキャップの保管

取りはずしたノーズキャップは、マガジンカバーを開き、穴部をマガジンスターの軸部にさし込んで保管してください。

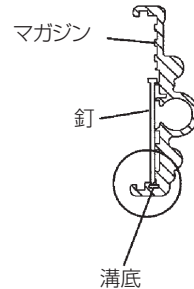


釘の装てん

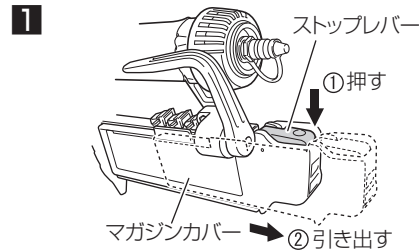
⚠注意

釘の装てん・抜き取りの際は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

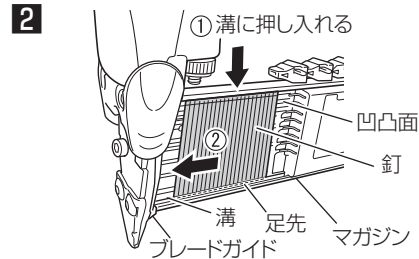
- 注**
- 釘は 5 本以上連結された物を使用してください。
この機体は、釘がなくなると、空打ち防止機構が作動する構造です。(右ページ参照)
 - 長さの違う釘を同時に装てんしないでください。
 - 連結本数の少ない釘を、一度に数連装てんしないでください。
釘詰まりなど、不具合の原因になります。
 - 本機は 15 mm から 55 mm までの長さの釘が使用できます。
いずれの長さの釘も足先をマガジン下部の溝底に突き当ててください。(右断面図参照)



- 1**
- ① ストップレバーを軽く押します。
 - ② マガジンカバーを静かに引き出します。



- 2**
- ① 釘をマガジンの凹凸面に押し当て、釘の足先をマガジンの溝の奥までしっかりと入れます。
 - ② マガジン内の釘を指でブレードガイドの中へ押し込みます。



- 3**
- マガジンカバーの後部を前方に押して、釘がマガジンの凹凸面から浮き上がらないことを確認しながら、元通りにゆっくり閉じます。

- 注**
- マガジンカバーは静かに閉めてください。
強く閉めると、釘の連結が変形して、マガジンカバーが閉まらないことがあります。

釘の抜き取り方

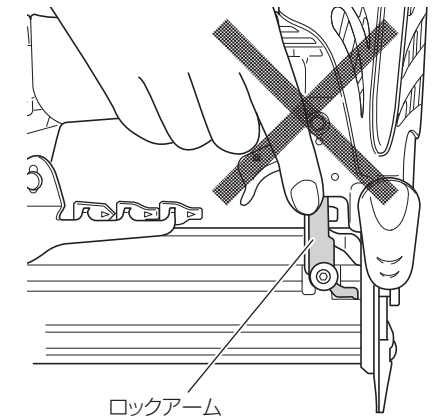
- ① ストップレバーを押して、マガジンカバーを引き出します。
- ② 釘をブレードガイド、またはマガジン内から抜き取ります。

- 注**
- ブレードガイド内で連結が切れてしまうと、手前の釘を取り除いた後に釘が残ってしまうことがあります。
 - ブレードガイド内に残った釘は見えにくいので、注意して確認してください。
 - 釘詰まりして釘が抜き取れないときは、P.21「釘詰まりの直し方」を参照してください。

空打ち防止機構について

この釘打機は釘がなくなった後の空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えています。釘がなくなると、引金が引けなくなります。

- 注**
- 釘がなくなり、引金が引けない状態で引金を強く引くと、空打ち防止機構が誤作動し、ピストンが作動することがあるので、強く引きすぎないように注意してください。
 - マガジンカバーを開くと空打ち防止機構が無効になります。
空打ちを続けると各部に影響を与えるので、空打ちをしないよう注意してください。
 - 釘を打つときはロックアームに触れないでください。
空打ち防止機構の誤作動の原因になります。
 - 空打ち防止機構が誤作動すると、引金が引けなくなったり、ピストンが作動することがあります。
このときは、P.22「空打ち防止機構の点検」の項を参照してください。



釘を打つ

- 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め
- 家具製造
- 薄いフロア材（厚さ 6 mm 程度）の釘止め作業

警告

- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- 使用しない場合や作業中断時は、エアホースをはずしてください。
- 作業終了後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

- 注**
- 低温時に使用すると、機体の作動が悪くなることがあります。
 - フロア材の釘止めは、仮止めとして使用し、必ず接着剤を併用してください。

1 給油する

10 ～ 15 滴の油をエアホースの取付口から入れてください。さび止めのため、作業後も給油してください。（P.12「給油について」参照）



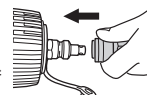
2 釘を装てんする

作業の用途に合った形状・寸法の釘をマガジンに装てんしてください。（P.15「釘の装てん」参照）



3 エアホースを接続する

エアホースのエアソケットをエプラグにさし込みます。（P.13「エアホースの接続」参照）



4 ロックレバーを「フリー」の位置にする

ロックレバーを回して「フリー」の位置に合わせてください。（P.11「引金のロック機構について」参照）



- 注**
- 材料のかたさ・厚さ・組み合わせによっては、釘が曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちして確認のうえ、ご使用ください。

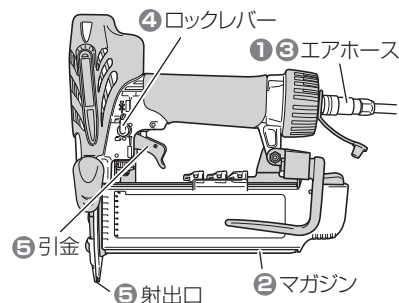
5 釘を打つ

（右ページ「安全装置について」参照）

- 釘を打つ所に射出口を軽く押し当てて引金を引きます。
- 釘の打ち込み深さ調整は右ページを参照してください。



- 注**
- 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。

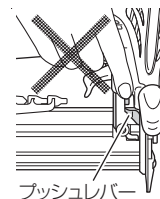


安全装置について

この機体は、射出口を打ち込み対象物に押し当て、引金を引かなければ釘は発射しません。従って、引金を引いただけのとき、または、射出口を打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。これは、誤って引金を引いたり、射出口を押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

警告

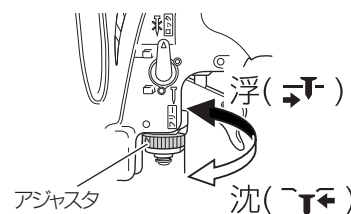
引金を引くときは、他の指でプッシュレバーなどを固定しないようにしてください。誤って釘を発射した場合、けがの原因になります。



打ち込み深さの調整方法

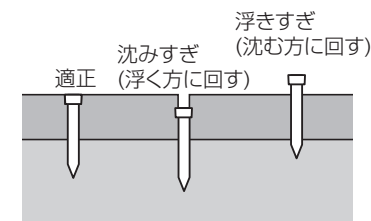
アジャスタで打ち込み深さを調整する

試し打ちし、釘が沈みすぎるときはアジャスタを浮く方（マーク ↑）に回します。釘の頭が浮くときは、アジャスタを沈む方（マーク ↓）に回します。アジャスタは、1 回転させるごとに 0.75 mm 移動します。



警告

アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認のうえ、引金をロックし、エアホースをはずしてください。



コンプレッサの空気圧力を併用する

アジャスタだけで打ち込み深さを調整できない場合は、コンプレッサの空気圧力とアジャスタを併用して調整します。以下の手順で、打ち込み深さを調整してください。

- ① アジャスタを最も沈む方向に回します。
- ② 下表を目安に用途と使用釘に応じたコンプレッサの空気圧力に設定します。
- ③ 試し打ちをして打ち込み深さをアジャスタで微調整します。

- 注**
- 釘の打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

使用空気圧力、アジャスタ位置の目安

使用 釘	使用 空 気 圧 力	アジャスタの位置
T 1015 ～ T 1025(U)	1.17 MPa { 12 kgf/cm ² }	最も沈む方向に回してセットする
T 1030 ～ T 1040(U)	1.47 MPa { 15 kgf/cm ² }	
T 1045 ～ T 1055	1.76 MPa { 18 kgf/cm ² }	

エアダスタバルブの使い方

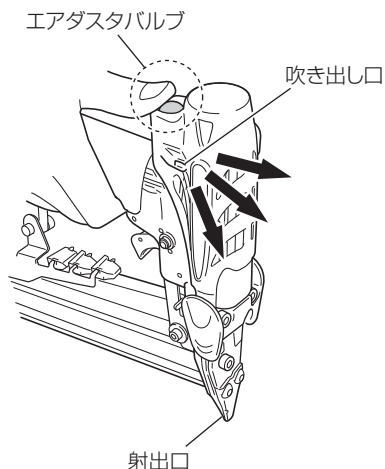
⚠ 警告

- エアダスタバルブを使用するときは、引金をロックしてください。
- 人体に吹き出し口を向けないでください。
- 射出口を押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。

- 注** • 機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合があるので、油がかかっても支障のない所で2～3秒試し吹きしてから作業してください。
- エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。
このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。

この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

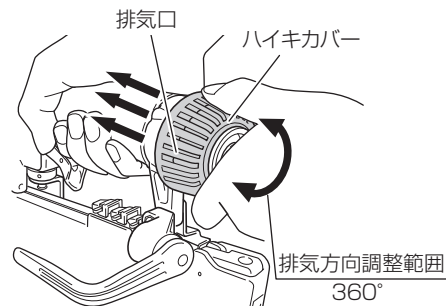


排気方向の変更方

⚠ 警告

排気方向の調整をするときは、引金をロックしてください。

排気口の向きは、ハイキカバーを回すことにより360°の範囲で変えることができます。



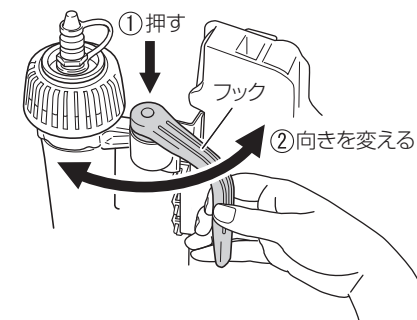
フックの取扱い方

⚠ 警告

- フックの向きを変えるとき、取付け位置を変えるとき、使用するとき、引金をロックし、エアホースをはずしてください。
- フックを使用する時は、工具本体が落下しないように、しっかりと掛けてください。工具本体が落下すると事故の恐れがあります。

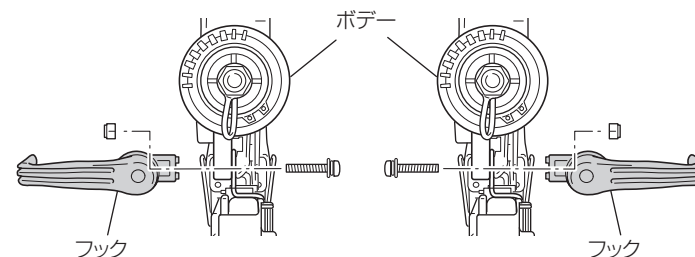
フックの向きを変える

フックは向きを変えることができます。フックの向きを変えるときは、矢印の方向に押しながら回してください。



フックの取付け位置を変える

フックは2方向に取付け位置を変えることができます。向きを変えるときは、プラスドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組み込んでください。



釘の取扱い方

- 注** • 釘は、ていねいに扱ってください。

落とすと、連結部が切れることがあり、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘詰まりなどが発生することがあります。連結部が切れた釘は使用しないでください。

- 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。
さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があります。釘梱包箱などに入れて保管してください。

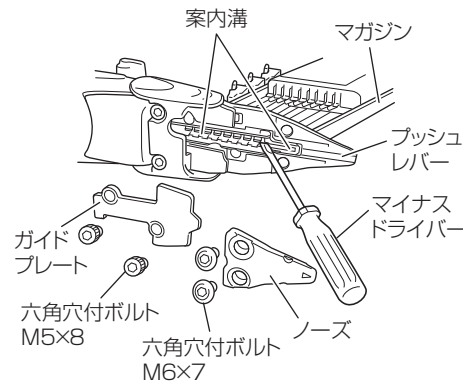
保守・点検

⚠ 警告

釘詰まりを直すときや点検・手入れの際は、引金をロックし、エアホースをはずして釘を全部抜き取ってください。

●釘詰まりの直し方

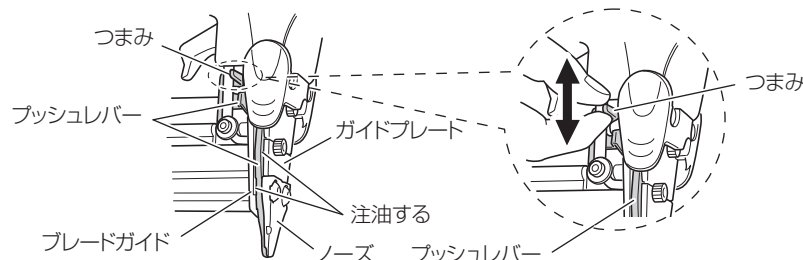
- ① マガジンに入っている釘を全部抜きます。
- ② マガジン後部に収納してある六角棒スパン 4 mm を使用してノーズまたは、ガイドプレートをはずします。
- ③ プッシュレバーやノーズとガイドプレートの案内溝に詰まった釘、接着剤、破片、木くずなどをマイナスドライバーなどで取り除きます。
- ④ 組み立て後、プッシュレバーとノーズを引き出してスムーズに上下動することを確認してください。
(下の「プッシュレバーの点検」参照)



注 ドライバブレードの先端が摩耗すると、釘詰まりや釘浮きが発生しやすくなります。釘詰まりや釘浮きが多発するようでしたら修理を依頼してください。

●プッシュレバーの点検

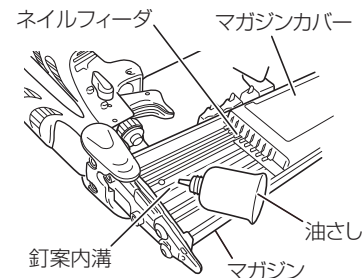
プッシュレバーのつまみを上下させ、プッシュレバーとノーズがスムーズに摺動することを確認してください。
プッシュレバーの摺動部は掃除し、時々付属の油を注油してください。
油を注ぐことによりスムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。



●マガジンの点検

マガジン内を時々掃除してください。
マガジンカバーを引き出して、溝の中にたまった釘の接着剤、ごみ、木くずなどを取り除いてください。

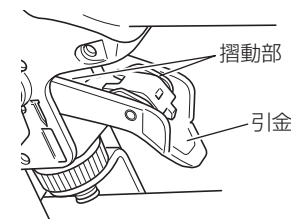
注 釘案内溝が汚れると、釘を送るネイルフィーダの動きが悪くなり、空打ちが発生しやすくなります。
空打ちが多発するときは、釘案内溝にたまった釘の接着剤、木くずなどを取り除き、付属の油を全体に薄く塗布してください。



●引金の点検

引金の摺動部は時々掃除し、付属の油を注油してください。

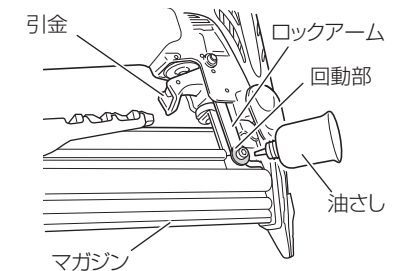
油を注ぐことにより、スムーズに作動すると同時にさび止めにもなります。



●空打ち防止機構の点検

空打ち防止機構が円滑に作動するようにロックアームの回転部に付属の油さしで注油し、指でロックアームを上下させてください。

その後、釘が装てんされていない状態で、マガジンカバーを閉じて引金が引けないこと、マガジンカバーを引き出して引金が行けることを確認してください。

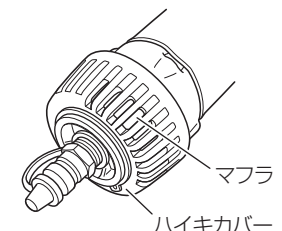


●マフラの点検

この機体は、排気時の騒音やほこりの巻き上げを少なくするため、排気部にマフラを内蔵しています。

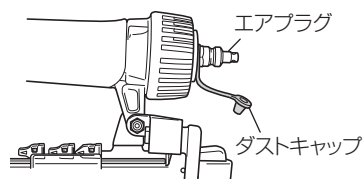
マフラが目詰まりや破損したときは、マフラを交換してください。

マフラ交換の際は、お買い求めの販売店に依頼してください。



●ごみ・ほこりの防止

使用しないときは、エアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。



●機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

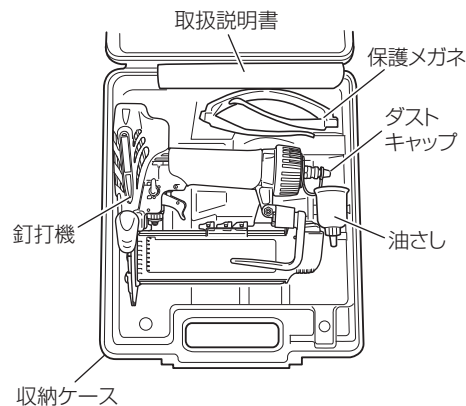
●作業後の保管

⚠警告

作業後は、釘を全部抜き取ってください。

注 エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体を逆さにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、収納ケースに入れて保管してください。機体と付属品は右図のように収納ケースに入れてください。
- 長期間使用しない場合は：
 - さび防止のため、エアプラグから給油し、マガジンを開いて2、3回空打ちして油を内部に行きわたらせてください。
 - 金属の摺動部には油を薄く塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油はP.24「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

高圧釘打機用エアコンプレッサを使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力 (MPa) の関係は、下表を目安にしてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力	0.98～1.37 MPa {10～14 kgf/cm ² }	1.37～1.67 MPa {14～17 kgf/cm ² }	1.67～1.96 MPa {17～20 kgf/cm ² }	1.96～2.26 MPa {20～23 kgf/cm ² }
高圧釘打機用 エアコンプレッサ	EC 1443H, EC 1443H(L), EC 1445H	240～230本	230～200本	200～150本
		150～90本		

連続して釘打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をお勧めします。

使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをお勧めします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類	銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル	——— 【別途販売しております】
その他の オイル 〔市販品〕	ベ ビ コ ン 油 日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タ ー ビ ン 油 タービン油各銘柄 ISO VG32～68（#90～#180）

注 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると作動不良の原因になります。

メ モ

メ モ